

第 62 期 事業報告

平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで

当法人は、医療、保健、福祉、教育、その他より良い社会の形成に関する事業を総合的・一体的に行い、地域社会の福祉の増進及び地域住民の生活向上に寄与することを目的に、平成 26 年 4 月 1 日に公益社団法人として認定を受け、より公益性の高い法人になれるようにと、医療を中心に事業を展開してまいりました。また、今年度は、御殿場市に活動拠点を移し地域の公益のため、医療保健活動の一つとして富士病院を開設運営して 60 年の節目の年でもありました。

3 病院で市立病院の代わりを担い、より安全・確実で親切的な医療を、職員皆が培った技術を持って診療を実践することで、すばらしい病院群が形成され、地域医療を守っていくために平成 27 年度事業計画の基本方針として

法人が運営する 3 病院とグループホーム、訪問看護ステーション各々の事業の技術と水準を向上させ、地域医療構想を見据えて地域の中核的機能を果たす。

他医療機関・行政・施設との連携を一層強化し、地域包括ケアシステムの動きに注意を払いつつ、急性期から在宅医療、介護までの一連のサービスを包括的かつ総合的に確保できるよう推進する。

広範囲な公益事業を各部門で積極的に取り組む。

を掲げ、これらの基本方針に沿って策定した事業計画に基づき、次の公益事業を実施しました。

公益事業の内訳

1. 病院の運営
2. 訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所の運営
3. 高齢者のグループホームの運営
4. 一般住民に対する医療健康づくりのためのセミナー、講演活動等
5. 医療人材の養成支援
6. 病院、施設等における各種相談助言

1. 病院の運営

御殿場市、小山町の地域を中心に、地域医療の確保とこれを通じて地域社会の発展に寄与することを目的として、二次救急医療、急性期・慢性期医療は無論、行政や住民の医療ニーズなどに対応した診療の開始、また、その他これらに付随あるいは関連する事業等を一体的に実施しました。

現在、急性期疾患に対応する一般病床を持つ富士病院、一般病床及び療養病床を持つ富士小山病院、一般病床及び腎臓病(透析)センター・血管創傷管理などの機能を持つ東部病院を運営し、その継続に努めました。

当地域においては、地域包括ケアシステムについての具体的な動きはなかったものの、当法人が地域における医療・介護の中核的な立場を存続するためには、地域包括ケア病棟(室)を3病院のいずれかに設置しておく必要性を感じております。高齢化と医療費削減の流れの中で、療養型病院でケアしてきた比較的軽度な疾患を持つ患者の在宅への移行が強く求められております。つまり、急性期医療と在宅医療の中間に位置して両者をつなぎ、在宅支援を行う専門スタッフで構成されたチームが必要であると痛感しました。

富士病院の救急の機能を充実させ、東部病院、富士小山病院の救急の負担を徐々に緩和することを図りましたが、年度後半には富士病院の入院患者数の急増により受け入れ困難な事例も増加し、期待に応えられないケースがありました。また、東部病院の内科常勤医の退職の補充ができず、富士病院から東部病院に患者を転送することが厳しい場面もあり、加えて看護師不足も追い打ちをかけ、厳しい運営の1年でした。しかしながら、平成28年度は、法人内で内科2名、外科1名、整形外科1名、健診1名の常勤の医師の採用が決まり、明るい兆しが見えてきました。

また、ICT事業の一環として、遠隔画像・データの閲覧が、連携カードによりどこからでも富士病院のサーバーに入り、必要な患者情報を閲覧できるシステムの利用が進んでおり、診療情報の迅速化と効率化に繋がっております。

また、駿東郡小山町須走に所在する医療法人社団沙羅 東富士病院と親密な連携病院となったことから、当法人の精神科領域のみならず、認知症疾患の対応のレベルが向上しました。

健診事業は、御殿場市、小山町の住民健診(特定健診、乳がん、子宮ガン等)を中心に、最近の医療機器や技術力等病院の持っている機能をフルに生かした精度の高い検査を実施し、その結果データを分析し、市の医療計画への反映や住民の疾病予防と公衆衛生向上に寄与しました。また、住民の健康意識の向上と啓発活動も積極的に取り組みました。脳ドックの増加で、疾患が見つかり、延命につながる事例も増加しました。

さらに災害対策については、今年度、園田副院長が地域の災害医療コーディネーターとして東部保健所より任命を受けたことなどから、3病院が救護病院としての役割を認識するとともに、災害時医療救護活動の最重要拠点として活動しました。また、透析医療についても富士病院が災害拠点病院として位置づけられております。各々の病院にて災害医療チームがトリアージをはじめ、実際の救護活動をイメージした訓練を行政・消防署と連携して実施しました。

各病院の運営概況

富士病院の運営

富士病院の救急患者の受入件数は、年間 1,022 件（昨年 1,025 件）でした。さらに、沼津地区（沼津・三島・裾野・長泉町）の内科の二次救急（広域救急）の支援は、年間 48 日担当し、救急車 65 台（うち入院 46 名）を受入れました。広域担当では遠方から運ばれたことに対する患者様の不満の声は継続しております。内科以外にも、外科の二次救急医療を引き続き週 2 日受け持ち、加えて、第 2、第 5 土日の日当直の外科担当も実施しております。循環器疾患は、24 時間 365 日緊急カテに対応し、小児医療も、2 人の常勤医により可能な範囲の入院の受入、緊急透析などに対応してきました。また、緊急内視鏡についても、看護スタッフの待機を設置し、検査、放射線、手術室、ME も夜間対応の可能な体制で臨みました。放射線技師については、富士病院で富士小山病院、東部病院の待機も支援しております。

スタッフ教育に関しても同様に注力し、医療水準のアップを図りました。しかし、看護師不足は解消せず、ICU 室の活用は一時中止したままの状態です。平成 28 年度中にはハイケアユニットとして再開させる予定です。

急性期医療以外にも、地域で必要とされている医療の継続と診療内容の充実、診断の精度を上げるための医療機器等の整備など、診療レベルの向上に努めました。

健診事業も全体的に増加し、出張健診では、新たな企業が加わりました。検査結果に基づく診断、健康管理及び予防等実施し、治療に至る包括的対応を行い、地域住民の健康予防対策室的な役割を果たしました。

また、感染対策医療分野では、新型インフルエンザ等対策特別措置法における指定地方公共機関として、発生地域からの帰国者・接触者の外来診療、アウトブレイク時の入院診療に対応するため、その職員の感染予防に活用すべく、感染症防護対策キット 330 セットを県補助で用意しました

在宅訪問診療は、通院できない患者のために、訪問看護ステーションと連携して訪問診療を実施しました。高齢者の救急医療の重要性を再認識し、施設からの受入にも注力しました。特別養護老人ホーム、有料老人ホーム、高齢者専用住宅等連携施設への定期的な訪問診療も、在宅訪問と合わせて実施し、在宅医療の推進に貢献しました。

以上の結果として、一日平均患者数 125 人（昨年 122 人）となりました。平均在院日数 12.2 日（昨年 11.1 日）で昨年より増加しました。これは高齢者の救急の増加と、長期患者の他施設への転院がスムーズにいかない場面があったことが反映しております。平均入院日当点は 6,327 点（昨年は 6,350 点）でした。

医業収入については、外来収入が 1,871,849 千円（予算比 1.8%減：昨年度実績 1,850,973 千円）と微減、入院収入が、2,949,381 千円（予算費 1.2%増：昨年度実績

2,881,595 千円) でした。保健予防活動は、175,303 千円(予算比 2.3%増:昨年度実績 158,878 千円)と大幅な増収となりました。医業収益総額では5,225,846 千円の収入を確保(昨年は 5,124,934 千円)、対予算 92,799(予算比 1.7%減)の減少、昨年度実績からは 100,912 千円(1.97%)の増収となりました。

医業費用については、給与費 2,446,562 千円(予算比 5.4%減:昨年度実績 2,363,513 千円)となりました。材料費は 1,690,119 千円(予算比 1.6%増:昨年度実績 1,651,581 千円、委託費は 215,815 千円(予算比 1.9%増:昨年度実績 227,468 千円)経費は 698,865 千円(予算比 0.2%増:昨年度実績 727,328 千円)減価償却費は 132,948 千円(予算比 13.2%増:昨年度実績 142,330 千円)でした。今期の医業収入は約 2%の伸びに留まり、経費も節減しましたが 1,566 千円の経常利益となりました。

富士小山病院

富士小山病院特別会計の保険診療収入の内、療養入院収入(介護保険)は、平成 27 年度介護報酬のマイナス改定の影響により減収となる見込みでしたが、7 月に加算用件(療養機能強化型 A)を確保したことにより、ほぼ前年度並みの収入(予算比 + 2.8% 昨年比 + 1.0%)となりました。一般入院収入は、患者数が前年比若干(+ 0.7 人)増加しましたが、後述の白内障手術患者の減少に伴い収入(予算比 - 1.8% 昨年比 - 2.5%)は減少しました。

外来収入は、平成 24 年度からの患者数の減少傾向に歯止めがかからず、前年度比 2,113 人の減少となっています。主な理由としては特に眼科患者の減少が著しく、本年度御殿場市内の既存の眼科医院が新築し白内障手術を開始したことによるものと、小山町人口の減少傾向等(国勢調査 平成 22 年 20,629 人、平成 27 年 19,516 人)が影響しているものと考えられます。以上のことから、医業収益は前年比 25,000 千円余減収となりました。

医業費用は、人件費が産休看護師の復職や退職金に伴い前年比 2,200 万円余増加しましたが、収入に伴う材料費(医薬品等)及び経費が 1,200 万円弱減少により、前年比 1000 万円余の増となり今後更なる経費の削減に努めてまいります。

このような中、女性外来は、557 名と前年比 + 82 名増加しました。これは当院院長が、婦人科専門医として当該女性外来及び健康講座の実施や、静岡県の要望で開催した不育症シンポジウムは、県内外からの問い合わせがありましたが、地域に根ざした継続的な啓発活動等の効果と考えられます。その他、小山町の人口減少傾向がありますが、基本健診、予防接種等の健診事業は、減少傾向はなく、救急医療に関しても救急車受入台数も(前年+49 台)増加し、また、7 回目を迎える健康講座の開催、小山町キャリア教育として出前授業の再開と、小山町唯一の病院として地域健康増進及び救急医療、啓発活動に寄与しました。

病院経営に優秀な医師の確保は不可欠ですが、今年度も獲得はできませんでした。

小山町からの特例交付金を有効に使い、受け入れやすい職場環境の整備(最新医療機器の導入他)及び就業条件の改善や優秀なコメディカルの確保を図っていきます。

今期から、新年度のオーダーリング導入(平成28年10月稼働予定)に向けて現在進行中です。また、建物の老朽化に伴い建て替え資金の積み立て(今期 35,000 千円)を始めました。

東部病院

概要

平成27年度の医業収益は、1,104,808 千円で、(前年比 + 27,457 千円)、当期損益は 43,552 千円、(前年比 20,758 千円)となりました。

外来全科は、延べ患者数 43,106 人(前年比 + 47 人)一日平均患者数 137.7 人で、ほぼ前年並みの患者数を確保できました。入院全科は、年間延べ在院患者数が 8,382 人(前年比 1,179 人)一日平均入院患者数は 22.9 人(前年比 4.5 人)となりました。

透析収益は、外来が 516,790 千円、延患者数 17,484 人(対前年比 + 54,043 千円 延患者数 17,484 人 前年比 + 2,385 人)、入院が 89,721 千円 延患者数 2,772 人(対前年比 59,073 千円 延患者数 1,744 人)となりました。

当院の特徴の一つである『足外来』は、外来患者数は減少していますが(145 人)、入院患者数は増加(+ 76 人)し、より専門化が進行しており、入院収益比も 38%を占めるまでとなっております。

医療職職員募集活動

東部病院は、個人病院の旧村上病院を引き継ぎ、病室等の施設基準は平成元年に認可を受けたまま今日まで経過措置によって運用されて参りました。

その病室は7人部屋が5室、6人部屋が3室、2人部屋2室個室3室の、1病棟60床の構成で、ベッド面積は旧医療法基準(4.3㎡)で造られており、現行基準面積(6.3㎡)に比べ、使用勝手が悪く、個室不足からも実使用可能病床数は40床にも満たない状態です。また、倉庫・収納スペースの不足など、病棟の構造が実情にそぐわず、その解消を患者さまからも職員からも求められておりました。

これら構造上の問題は医療職員募集にも少なからず影響があり、特に病院見学をした医師からは、病室及び医局の狭隘、電子カルテ等の未整備が主に問題となっております。

そのような状況下、平成26年6月末に常勤透析医師の退職、更には28年4月に常勤内科医師の退職が決定となり、従来から行っておりました複数の常勤医師の獲得は、喫緊の重要事項となりました。

平成26年9月に医師紹介業社1社と一括業務委託契約を締結し、医師採用アウトソーシングサービスを受けながら、業者職員と事務長同行による、他の医師紹介業者

訪問を頻回に行い、カルテの電子化の端緒として処方オーダーシステムを平成 27 年 3 月導入運用するとともに、病床の有効活用化と医局拡大を目的とした増改築の検討を進め、紹介業者や招聘医師に説明をして参りました。

これらの結果、平成 28 年 7 月 1 日から常勤外科医師 1 名が、同年 10 月 1 日から常勤内科医師 1 名の採用が内定いたしました。

また、平成 28 年 4 月から、大学医局派遣として非常勤の消化器外科医 2 名の増員、加えて、弊法人の富士病院からも 5 月から 7 月まで内科常勤医師 1 名、4 月から内科非常勤医師 1 名、整形外科医 1 名の派遣が決定しております。

募集活動の一応の成果と見るができますので、引き続き募集活動を行って参ります。看護師をはじめとする医療スタッフは、稼働病床の関係から、ほぼ充足されてはありましたが、今後の増改築により、稼働可能病床が増加しますと職員不足となりますので、積極的に採用活動を行ってまいります。

1-1 一般外来

富士病院の外来については、診療精度の向上を目指し、各種検査の機器の更新を積極的に行い、また、コメディカルの技術向上を推進した結果、診断・治療能力は着実に進みました。当会では各種検査結果は当日治療に反映できるよう努めており、結果、迅速な診断を可能にしております。加えて、待ち時間対策としてサテライト入力を導入、診察・スタッフの動線の改善により待ち時間短縮が進み、患者様のスムーズな受診に繋がりました。しかし、1 割以上の患者の増加に対応に追われる場面も多く、顕著な改善とは言い難い状況でした。富士小山・東部病院は患者数横ばいでしたが、専門外来など特色を持った外来は定着してきており、他医院からの紹介も増加している。

【平成 27 年度実績】()は昨年度実績

一般外来数

年間延受診者数 247,223 人(昨年 237,627 人)

富士病院 161,245 人(昨年 149,128 人)、富士小山病院 43,269 人(昨年 45,750 人)、東部病院 42,709 人(昨年 45,750 人)

1 日外来平均患者数

富士病院 547 人(507 人)、富士小山病院 147 人(156 人)、東部病院 136 人(137 人) 合計 830 人(800 人)

1-2 健診事業

一般健診、人間ドック、特定健診、婦人科健診、小児健診など幅広く当院の診療体制を活用した健診が行われた。

【平成 27 年度実績】

特定健診受診者数 2,713 人(3,068 人)
富士病院 526 人(900 人)、富士小山病院 1,072 人(1,036 人)、
東部病院 1,115 人(1,129 人)、
マンモグラフィ - 健診 2,182 人(2,016 人)
富士病院 1,281 人(1,066 人)、富士小山病院 530 人(489 人)、
東部病院 371 人(461 人)
子宮ガン検診 1,081 人(1,427 人)富士病院のみ

1- 3 救急医療

富士病院では沼津・三島・裾野の内科広域救急担当を月 2 回実施した。
救急車受入件数は 富士病院 1,022 人(1,025 人)、富士小山病院 199 人(150 人)、東部病院 122 人(112 人)

【平成 27 年度実績】

(救急センターからの転送・他地域・病院からの搬送も含む)

・疾患別 3 病院合計

心疾患	211 人(247 人)	呼吸器疾患	198 人(177 人)
消化器系疾患	151 人(136 人)	脳血管疾患	63 人(92 人)
小児救急	45 人(42 人)	外傷系	64 人(49 人)
中毒	20 人(19 人)	不明	35 人(19 人)
その他	556 人(394 人)	合計	1,343 人(1,287 人)

・休日・時間外救急対応件数 1,977 人 (1,842 人)

富士病院 1,679 人(1,529 人)、富士小山病院 210 人(219 人)、

東部病院 88 人(94 人)

・広域救急救急車受入件数 65 件(昨年 63 件)

1-4 在宅訪問診療

地域医療構想と地域包括ケアシステムの推進の中で、高齢者の方々が、安心して疾患に対応した医療・介護の提供が受けられるよう支援し、加えて看取りの問題も包括的に支援する仕組みを徐々に構築するように進めました。連携している施設と連絡を密に取りながら、在宅・施設でその人らしい生き方で暮らせるよう、訪問看護ステーションとも連携して支援してきました。例えば富士病院では施設入所者の身体情報をあらかじめ連絡をもらい、万一の対応を当直医に連絡しており、急変時の受け入れをスムーズにしました。1施設が相手方事情により往診の中止となりました。

【平成 27 年度実績】

施設訪問診療件数 10 施設(11 施設)、

訪問診療患者数 201 人(313 人)
訪問診療回数 2,318 回(2,828 回)

1-5 医療協力・派遣・ボランティア

当法人は他の病院・医院や行政・学校・企業からの医療協力・医師や看護師、技師の派遣・ボランティア派遣の要請などを可能な限り受け、地域医療の向上と各種ボランティア活動を通じて助け合いの精神の普及に努めました。

【平成 27 年度実績】

- ・御殿場市救急医療センターへの一次救急医療代行(年3回)
- ・救急センターの当直スタッフ派遣
小児科医師 50 日(50 日) 外科医師 24 日(28 日)
放射線技師派遣 139 日(144 日)
- ・地域医療機関・施設への定期スタッフ派遣協力
医師 7 施設(富士宮市立・徳州会大和・オレンジシャトー他5施設)
放射線技師4施設(東富士病院・富士山麓病院・裾野第一クリニック他)
言語聴覚士1施設(社会福祉法人富岳会)
臨床検査技師2施設(こうえい痛みのクリニック、共立産婦人科医院)
- ・医師会行事への医師・看護師派遣、緊急時受入
予防接種・乳幼児健診(24 回)
- ・学校医 校数8校 校医出動件数 13 回(同数))高松5回、
マラソン大会・体育大会など看護師派遣3日(14 日)
- ・診療協力(医師会経由含め催し物患者受け入れ)12 件(10 件)
- ・災害時ボランティア活動
リレーフォーライフ参加人数 2 人(2 人)
- ・募金活動金額(ユニセフ募金・ハートフル募金等)
24,588 円(63,206 円)
- ・地域防災訓練支援(看護師・放射線技師派遣) 5 人(4 人)
- ・高校等への医療担当看護師派遣)1件(1 件)
- ・他施設からの医療職員研修の受け入れ6件(東部病院3件、訪問看護2件、富士病院1件)

1-6 オープンシステム事業

地域に開かれた病院として、オープンシステムをいち早く導入し、地域全体の医療の質の向上に努めている。近隣の診療所・病院の医師が、当院医療機器を共同で利用し、当院専門医の診断などを付けてお返しする等積極的に取り組む。共同利用の医療機器は内視鏡・カテーテル検査・MRI・CT・ホルター心電図等広範囲であり、他病

院・診療所における不足の部分を当会でカバーすることにより、地域で効率よく安全で質の高い医療を展開できることに貢献しています。

【平成 27 年度実績】 他施設からの依頼

CT 依頼施設数 16 施設 (15 施設)	CT 件数 329 件 (228 件)
MRI 依頼施設数 11 施設 (12 施設)	MRI 件数 244 件 (173 件)
エコー 依頼施設数 8 施設 (6 施設)	エコー 件数 28 件 (18 件)
大腸内視鏡検査依頼施設数 13 施設 (12 施設)	大腸内視鏡件数 46 件 (36 件)
胃内視鏡依頼施設数 5 施設 (5 施設)	上部内視鏡件数 13 件 (13 件)
冠動脈造影依頼施設数 6 施設 (6 施設)	冠動脈造影件数 19 件 (49 件)
その他依頼施設数 15 施設 (6 施設)	その他件数 67 件 (85 件)
依頼施設数合計 74 施設 (65 施設)	依頼件数 746 件 (602 件)

1-7 専門領域

循環器内科、心臓血管外科

日本循環器学会の循環器専門医研修施設として、24 時間 365 日体制で循環器科医師を配置し、緊急の心筋梗塞等にもいつでもカテーテル治療の対応ができる体制を整えてきました。また、心臓バイパス術、弁置換術など心臓センターとしての機能を充実させ、循環器内科と心臓血管外科がチームとして合同で地域の心疾患をカバーする医療を提供しました。平成 7 年に“地域住民の心臓をわれわれで守る”という強い理念でスタートして 20 年以上経ち、最高水準の循環器治療ができる病院としての地位を確立しつつあります。また、アブレーション治療（経皮的心筋焼灼術）の中でも発作性及び持続性心房細胞に対する治療を中心に、3D マッピングシステムを用いて成果を出しております。

【平成 27 年度実績】

急性心筋梗塞 104 例 (76 例)、救命率 100% (100%)
 冠動脈造影法 (CAG) 406 例 (432 例)、
 経皮的冠動脈形成術 439 例 (565 例)、
 心筋焼灼術 76 例 (67 例)、ペースメーカー埋め込み術 36 例 (38 例)、
 心臓バイパス術等開胸術 24 例 (23 例)、腹部大動脈手術 3 例 (3 例)、
 下肢静脈瘤 140 例 (123 例)、シャント手術 87 例 (137 例)、
 末梢血管再生医療 25 例 (1 例)

小児科

当法人の富士病院は、この地域で唯一小児科の入院ができる施設である。医師の待機は 24 時間 365 日体制で急病患者に対応した。東海大学の派遣で 2 名の常勤医と 5 名の非常勤医師で対応してきました。

【平成 27 年度実績】

緊急入院件数 74 例 (76 例)、 各種予防件数 1,951 件 (1988 件)
乳幼児健診 177 件 (157 件)、 脳波検査 60 件 (56 件)、
インフルエンザ 500 件 (499 件)

呼吸器内科

当地域は呼吸器疾患の患者が多く、また、専門的な診療ができる病院は、唯一富士病院だけである。昨年度呼吸器内科常勤医師が退職し、昭和大学から非常勤医師の派遣で平成 27 年度は乗り切りました。引き続き常勤医師の雇用に努めます。退職した常勤医師も非常勤として診療に協力頂き、睡眠時無呼吸疾患の検査を再開する予定。内科の先生方の負担が増加しました。

【平成 27 年度実績】

在宅酸素療法患者数 96 名 (139 名)
無呼吸症候群治療患者実数 15 名 (258 名)

糖尿病内科

日本糖尿病学会認定教育施設として、チームで糖尿病指導に当たり、その管理に傾注しました。また、各種糖尿病に関するイベントを開催し、富士病院の患者会である“ごてんばふじの会”を中心に活発に啓発活動を行いました。スタッフ育成については、糖尿病療養指導士を育て、スタッフ 1 人 1 人の技術の向上にも力を注ぎました。患者様の教育入院では療養指導チームによる療養指導と並行して、糖尿病の成因、病態、合併症などの全身精査を行い、患者様の病態に合わせた最適な治療を行いました。

【平成 27 年度実績】

糖尿病受診患者延数 6,128 名 (6,124 名)
延べ受診患者数 11,136 名 (11,549 名)

消化器内科、外科(消化器外科)、大腸・肛門外科

当法人では、消化器全般の疾患を正確な診断をもとに診療、治療方針を決定、十分な説明をもとに、患者様にとってより良いと思われる診療を心掛けてきました。

最新の 64 列 CT、1.5 テスラ MRI、内視鏡、超音波機器、各種血液検査機器これらを操作する熟練したコメディカルが精度の高いデータにより手術方針が決定し、救急医療にも繋がっております。

内視鏡を中心として癌の早期発見に努め、手術も積極的に実施し、症例は年々増加しております。また、肛門科におけるジオン注射など特殊な手技

も積極的に取り込み実施しました。

【平成 27 年度実績】 件数は3病院の合計件数

消化器系手術合計 710 件(288 件)、全麻症例 212 件(235 件)

上部内視鏡検査 2,937 件 (2,986 件)、

大腸内視鏡検査 1,302 件(1,314 件)、

ポリープ切除術 168 件(171 件)、 E R C P 39 件(53 件)

E S D 5 件(2 件)、 吐下血緊急入院 36 件(34 件)、

穿孔 2 件(2 件)、 腹腔鏡下胆嚢摘出術 21 件(31 件)、

結腸癌切除術 42 件(35 件)、 小腸癌切除術 1 件(0 件)、

胃癌切除術 7 件(8 件)、 イレウス 11 件(13 件)、

虫垂 19 件(9 件)等

肛門科・ジオン注射療法 19 例(34 例)

乳腺外科

検診から診察、検査、手術、化学療法、リハビリ、患者会による心のケアに至るまで一貫した診療体制で、乳がん撲滅のために検診・診療・相談指導・啓蒙活動などを実施した。またトモシンセシス対応マンモグラフィーは精度の高い画像が得られ、乳がんの早期発見に大変役立ちました。

【平成 27 年度実績】

乳房切除術(温存) 31 件(31 件)、 乳腺腫瘍摘出 30 件(16 件)、

その他 4 例

マンモグラフィー検査 3,284 件(3,276 件)、

マンモトーム 54 例(19 例)

泌尿器科

当地域で唯一の泌尿器科の入院ができる施設であり、皮膚排泄機能認定看護師による指導も実施している。癌手術症例も多く、化学療法患者・結石破砕治療患者も多い。また、新規導入したレーザー破砕装置と軟性鏡による治療は患者様の負担を軽減し、治療成果も大きく、地域唯一の治療として注目を集めております。

【平成 27 年度実績】

膀胱腫瘍摘出術 36 件(0 件)、 膀胱経尿道的切除術 44 件(6 件)、

前立腺肥大切除術 23 件(14 件)、 その他 116 件(87 件)、

尿管結石破砕術 83 件(105 件)

手術件数 217 件(212 件)、 内全麻件数 67 件(18 件)

眼科

最新の検査機器を導入し、広範囲の眼科診断治療を実施しました。OCT による視神経・神経線維層解析が可能になり、緑内障の診断・治療評価の精度向上、パターンスキャングレーザーの導入により、網膜光凝固術に伴う苦痛が大幅に軽減され、患者様の評判は大変高く、利用が増加しました。また、手術も白内障以外に緑内障に対してのレーザー・濾過手術や眼底疾患に対して硝子体注入療法や網膜光凝固術等を行いました。

【平成 27 年度実績】

白内障手術 735 件(806 件)、 緑内障手術1件(4 件)、
網膜光凝固術 10 件(37 件)、

透析内科

御殿場市・小山町及び裾野市において当法人は唯一腎臓内科専門医による導入管理から急性期の合併症に対応。さらには外来透析患者の急変(骨折・心疾患・消化器系・脳疾患等)に緊急透析が出来る体制を 24 時間 365 日整えている。今年度は導入患者が多かった。

【平成 27 年度実績】

入院透析 平均 25 人(27 人)、延べ日数 3,839 日(4,424 日)
外来透析 207 人(201 人)、延べ透析回数 30,703 回(29,622 回)
内夜間透析 26 人(22 人)
透析導入件数 65 人(41 人)
入院受入回数 290 回 (219 回)
死亡件数 37 人(49 人)

整形外科

1.5 テスラ MRI と 64 列 CT を活用してできるだけ早期に正確な診断・治療を開始し、リハビリテーションに繋げて、早期機能回復を目指した診療を実施しました。脊椎脊髄外科指導医のもと、手術症例が増加し、新しくなった手術室を活用しております。人工膝関節置換術、関節鏡下検査等も積極的に行い、加えてモザイクプラスティーを使用した骨移植術にも取り組み、骨再生に効果的な低強度パルス超音波療法の採用など新技術も積極的に取り入れた治療を行いました。

【平成 27 年度実績】

人工膝関節置換術	7例(4例)
股関節人工骨頭手術	6例(8例)
大腿部骨折	25例(19例)
腰椎ヘルニア手術	67例(8例)

頰椎手術	18例(11例)
関節鏡(膝・肘)検査	11例(2例)
その他	173例(225例)
手術件数	277例(277例)
うち全麻件数	150例(178例)

1-8 療養病棟

富士小山病院療養病床 60 床利用率 95%(昨年 96.6%) 今期も生活困難者・生活保護受給者の受入を積極的に行ったが、今期は減少した。

【平成 27 年度実績】

月平均入院患者数	58 人(57 人)
内生保患者	6 人(3 人)

1-9 医療従事者による調査研究・学会発表

臨床より得られた研究課題について、研究し、得られた成果を学会・研究会で発表し、医学の発展に貢献した。

【平成 27 年度実績】

医師	22 件(15 件)(日本腎臓学会、日本腎不全看護学会、学術集会、産業保健セミナー)
看護師	6 件(7 件)(静岡県看護協会、静岡県腎不全研究会)
その他	10 件(5 件)(日本慢性期医療学会、地域保健福祉活動研究会)
合 計	38 件(27 件)

1-10 一般入院

富士病院の入院患者数は順調に伸びました。特に、2月から超急性期、急性期、慢性期と病床を区分けし、病棟管理師長を配置して救急受け入れ態勢、一般患者、紹介患者の受け入れ態勢を整え、その強化を図ったので、取り扱い患者数は増加した。しかし、3病院の機能分担が、医師不足などの影響で東部病院、小山病院とも取り扱い患者数が少ない状況が継続し、両病院に於ける経営への影響が大きかった。

【平成 27 年度実績】

入院延べ患者数

1 日平均取扱患者数	167.1 人(167.0 人)
富士病院	124.6 人(122.0 人)、富士小山病院 18.5 人(18 人)、
東部病院	24 人(27 人)

平均在院日数

富士病院	12.1 日(11.5 日)、富士小山病院 13.1 日(13 日)、
------	-------------------------------------

東部病院 13 日(11 日)
年間新入院件数 4,545 人(4,781 人)
富士病院 3,490 人(3,582 人)、富士小山病院 666 人(759 人)、
東部病院 389 人(440 人)

2. 訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所の運営

「その人らしさを大切にする看護」を理念とし、家族と共にその人らしく在宅で過ごしたいという願いに寄り添い、幅広い訪問看護活動を行っています。また、御殿場、小山地区は、開業医、勤務医が非常に少ない為、医療情報を地域に伝えるという役目も担ってきました。

職員が富士病院の訪問診療に同行し、利用者、家族、主治医とのパイプ役として在宅医療を支えています。在宅における訪問看護の必要性は高く、小児から高齢者まで多種多様な疾患や医療処置に 24 時間 365 日対応しています。

平成 26 年度の利用者数は、月平均 94 名、訪問件数は 5,854 件でしたが、平成 27 年度の利用者数は、月平均 99 名、訪問件数は 6,366 件と増加しました。

医療制度改革等により、入院患者の施設や在宅への移行が推進されていますが、地域においても、施設の増加や訪問看護ステーションの新設などがありました。今後も、家族の介護負担を考慮し、その人らしく在宅生活を継続できるよう支援を続けることが重要です。同時に医師を含む多職種との連携を円滑に行い、地域の方々の要望に応えられるような体制作りを継続していきます。

在宅でのリハビリテーションの必要性も更に増加し、理学療法士は、機能訓練強化、言語聴覚士は、嚥下訓練、誤嚥性肺炎予防等、訪問リハビリテーションを積極的に取り組みました。

【平成 27 年度実績】

(訪問看護)

利用者数 : 1,187 人(1,133 人)
指示書依頼医療機関 : 24 施設(29 施設)
訪問年間回数 : 6,366 件(5,854 件)
夜間休日相談回数 : 156 件(79 件)
夜間休日出動回数 : 202 件(59 件)
サービス担当者会議出席 : 79 件(92 件)

(その他)

静岡県訪問看護ステーション協議会主催の訪問看護電話相談
御殿場看護学校へ講師派遣(2 人)
訪問看護実習生の受け入れ(御殿場看護学校)

職場体験(御殿場西高校 1人)
医療機関の看護師等研修(1人)
看護職員管理者の相互研修(2人)
グループホームごてんば健康チェック(1回/週)

併設の居宅介護支援事業所では、介護支援専門員(訪問看護師と兼務)が利用者の要望に基づいてケアプラン作成に当たり、サービスの調整を行いました。

【平成27年度実績】

(居宅介護支援活動)

ケアプラン作成件数 40件

- ・介護支援専門員(5人)在籍し月1回の介護支援専門員連絡協議会に出席
- ・御殿場市介護認定委員(1人)
- ・御殿場市介護保険運営協議会委員(1人)
- ・介護認定調査員(2人)認定調査施行
- ・介護支援専門員在宅医療研修(2人)

3. 高齢者のグループホームの運営

“グループホームごてんば”は、開所から14年になります。認知症の入居者、一人ひとりに合わせた介護をするために、スタッフ間で話し合いを重ねながら柔軟に対応しています。

年間で入居者3名、退居者3名です。退居者は入院中に亡くなった方2名、救急搬送後病院で亡くなった方1名です。入院対応は6回行い、すべての入院日数を合計すると、206日となっています。

入居時より、病状が非常に重い持病を抱えている方が多いため、受診や入院の対応も多く、職員の業務負担が増えています。

重度化しても、家庭的な環境の中で日常生活の援助を行い、認知症の進行を穏やかにし、訪問看護ステーションと連携して健康管理を行いながら、明るく楽しい生活を送って頂いています。

地域密着型サービス事業所として、運営推進会議を年間6回開催し、様々なご意見を参考にしながらサービスの質の向上を行っています。運営推進会議を利用して、地域との連携が円滑に行えるよう活動しました。

研修研究活動として

- ・職員の研修においては、様々な研修に参加し、研修後は内部研修を兼ねた報告会を行い職員のキャリアアップを行いました。

地域貢献活動として

- ・グループホームごてんば便りを発行し、家族の方々、地域・連携施設などに配布して活動報告を行いました。
- ・地域の方からボランティアの参加希望があり、積極的に受け入れ福祉の心を共有して頂きました。
- ・近隣の御殿場聖マリア幼稚園との交流を通じて、幼児から歌やお花などのプレゼントを頂いた時の入居者の笑顔が印象的でした。
- ・介護についての疑問・相談を無料で受け付け対応しました。
- ・認知症になっても、安心して暮らせる地域を作る啓発イベントのRUN伴TOMO - ROW(ラン伴)に参加しました。

【平成 27 年度実績】

- ・入所者平均人数 7.5 人 (3.67 人) ・ ・ ・ 定員は 9 人
- ・介護度 5 は 1.28 人 (0.58 人) 介護度 4 は 0.98 人 (0.42 人)
介護 3 は 3 人 (2 人) 介護 2 は 1.28 人 (0.58 人)
介護度 1 は 0.9 人 (0 人) 要支援 0 人 (0.08 人)
- ・運営推進会議 6 回 (6 回)
- ・お花見などの催し年 37 回 (33 回)
- ・ホーム便りの発行 6 回 (6 回)

4. 一般住民に対する医療健康づくりのためのセミナー・講演活動等

4-1 セミナー・講演活動

健康長寿社会づくりのため、地域住民を対象とした健康管理や病気の予防についてのセミナーを主催したり、諸団体等が主催する講座に医師、看護師等を講師として派遣し、住民の医療や健康についての知識の向上に努めました。

【平成 27 年度実績】

医師(市民健康大学、糖尿病教室など) 13 回(10 回)、看護師 15 回(2 回)、
コメディカル 17 回(33 回)、 合計 45 回(45 回)

4-2 健康キャンペーン

地域住民の健康増進を図ることを目的とし、当法人の看護師及び医師の協働によるキャンペーンを地域の特徴などを踏まえて実施しました。

相談コーナーの開設、血圧測定、血糖値チェック、血流測定、試供品の提供などを病院内や市民交流センター等を会場として無料で行った。このほか、地域医療や生活習慣病に関する普及啓発も行いました。

【平成 27 年度実績】

・健康講座 2015	小山町総合文化会館	89 人(147 人)
・市民健康講座(東部病院)		310 人(150 人)
・東部糖尿病予防キャンペーン		50 人(110 人)
・ウォークラリー等(糖尿病キャンペーン)		80 人(70 人)
・糖尿病教室		112 人

5. 医療人材の養成支援

5-1 医療関係の実習生受入指導

病院では、大学や専門学校からの医学生、看護学生等の実習受け入れ、救急救命士の実習受け入れを行い医療に係る人材の育成を支援しています。

また、訪問看護ステーションでは、静岡県立静岡がんセンターと連携して認定看護師教育課程の緩和ケア実習指導を担当し、看護師の資質向上に貢献しています。

特に地元御殿場市医師会が運営する御殿場看護学校の運営等にかかわり、学校の講義においては当法人の医師、看護師等有資格者 31 人を派遣し、看護師養成について最大限の協力を行いました。

【平成 27 年度実績】

・昭和大学・東海大学他から医療関係学部の実習を受け入れた。

医歯学部 20 人(18 人)、薬学部 18 人(15 人)、臨床検査技師 1 人(1 人)、臨床工学士 2 人(2 人)、理学療法士 5 人(6 人)、言語療法士 1 人(1 人)、看護師 10 人(8 人)、社会福祉士 1 人(1 人) 救急救命士 13 人(12 人)

・御殿場看護学校

実習人数 220 人(239 人)、実習日数 380 日(370 日)、
延 5,121 人・日(5,314 人・日)

非常勤講師人数 31 人(31 人)、担当時間数 553 時間(487 時間)

5-2 セミナー・講演活動

地域の医療従事者の資質向上やより高度な知識の習得のため、当法人、医師会や看護協会等の関係団体が主催する医療従事者を対象とする研修会に当法人の医師ほか医療従事者を講師として派遣した。また、公開講座として地域病院・医療機関を対象に公開講座を開催した。ホームページにも掲載し広く呼びかけた。

【平成 27 年度実績】

・医師による講演(医師会・薬剤師会など) 44 回(38 回)

・看護師による講演 10 回(7 回)〔認定看護師による公開講座ほか〕

・コメディカルによる講演〔理学療法士・言語聴覚士・超音波技師等〕8 回(6 回)

合計 62 件(昨年は 51 回)

5-3 出前授業

地域の中学校・高等学校に出向き、医療に関わる仕事の意義等について講義を行い、将来の看護師ほか医療従事者を目指す生徒が増えるよう啓発活動や命の大切さの教育をするなど出前講座を行う。医療従事者について、さらに興味を持った若者に対しては、次の「5-4 職場体験実習」に参加する道を開いている。今期は学校から依頼がなかったため実施しなかった。

【平成 27 年度実績】

・看護師による講演 1 回(0 回)164 名

5-4 職場体験実習

地域の中学校、高校、社会福祉人材センター等が行っている職場体験学習を積極的に受け入れました。

【平成 27 年度実績】

高校生高校数 6 校(7 校) 学生数 13 人(17 人)

中学校数 7 校(6 校) 学生 20 人(16 人)

他団体 1 団体(4 団体) 参加者数 1 人(30 人)

5-5 看護学生への奨学金の貸与

御殿場看護学校等の看護師養成施設学生を対象に、当法人の創案により地域の病院が連携して奨学金貸与を実施しました。また、7 月より学生の支援の充実を図り、病院部会に奨学金の返還を全額免除することを提案し、決定されました。

【平成 27 年度実績】

・御殿場看護学校生 16 人(19 人)、(3 学年定員 96 人)

・その他看護学校生 4 人(3 人)

・富士リハビリ専門学校 1 人(0 人)

6 . 病院、施設等における各種相談助言

6-1 医療についての技術、各種の相談・助言

当法人の地域医療ネットワーク(他の病院、開業医、高齢者施設等を含むネットワーク)を活用して、患者と家族にとって最適な医療を受けられるように、住民を対象として相談助言を行なっている。医療機関や施設からは、摂食障害に関する相談、子供の発育・

病気に関する相談、グループホーム・個人からは、認知症に関する相談、在宅支援ナースに関する相談、通院中の患者または家族からは就職相談・社会資源活用のための相談、退院後の生活相談・経済的な相談、患者の家族からは、排泄障害に関する相談等がある。基本的にはすべて無料に対応しました。

【平成 27 年度実績】

地域医療連携室経由相談件数	9,859 件(8,810 件)
他院より紹介	3,403 件(3,578 件)
他院への照会介護棟に関する相談件数	2,995 件(2,132 件)
ケースワーカー相談件数	1,254 件(2,650 件)
介護棟に関する相談件数	1,301 件(1,339 件)
医事課相談件数	251 件(306 件)

6-2 生活困窮者等への支援

経済的な理由で必要な医療サービスを受ける機会が制限されないよう、生活困窮、心身障害、高齢等の患者に対して、病室料差額等の減額・免除の制度を実施する。

平成 12 年 1 月から子育て世代の負担軽減のため小児科の病室料は無料とした。

【平成 27 年度実績】

生活困窮者の室料等の減免件数	254 件(246 件)
生活困窮者の室料等の金額	10,104,480 円(7,775,220 円)
小児科室料の無料化	3,412,560 円(3,371,760 円)
老人施設居室	1,580,429 円(1,089,521 円)